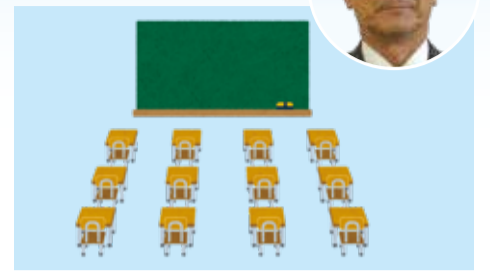


福生市施設保全・改修計画の疑問点について



日本共産党
池田 公三 議員



質問 少人数学級を推進する上で可能な限り学校数は維持すべきと考えるが、福生市施設保全・改修計画ではそのことに触れられておらず、計画の中で「学校規模及び配置の適正な数について早急に決定する必要がある」としたのはなぜか。

市長 施設保全・改修計画は、個

別施設計画と相互に補完し合う計画とすることから、同じ考え方で作成した。

質問 少人数学級は一人一人の違いや個性が生きる学級集団、真の切磋琢磨を可能にし、教員の長時間労働を解決する方策だと確信している。学校を統廃合した後、国や都が少人

数学級をさらに前進させる方針を示した場合の対応はどうするのか。

教育部参事 義務標準法が改正され、学級編制を40人から35人に引き下げるのに約40年を要した。今後変更された場合は、法に基づき必要な環境整備を行うなど、適切な対応がなされるものと認識している。

CV-22オスプレイについて



日本共産党
市毛 雅大 議員



▲CV-22オスプレイ

質問 平成30年10月配備以降のCV-22オスプレイに関する要請等の回数を伺う。

市長 毎年度実施の総合要請が4回、訓練実施に対する要請が6回、部品遺失や予防着陸等に対する要請を5回行った。そのほか、令和元年9月に目視による離着陸回数

の提供の中止に対する要請を、令和3年7月に6機目の配備に係る要請をそれぞれ1回実施し、これまでに計17回の要請を行っている。

福生市の障害者・障害児の施策について

質問 本市における障害者・障害児の施策について、その方針や基本的な考え方を伺う。

的な考え方を伺う。

市長 本市では「安心・健やかに暮らせる人にやさしいノーマライゼーション社会の実現」という基本理念の下、必要な支援を行い、現状の課題を分析し効果的な施策の充実に努め、全ての障害者の方が安心して暮らせるまちづくりを目指している。

コロナ禍における消防団員の訓練について



公明党
原田 剛 議員



▲消防団員の訓練の様子

質問 コロナ禍で消防団員の訓練はどのように行われているかを伺う。

市長 災害時以外の出動の一時停止や訓練時間の短縮を行いながら、消防団員としての基本的な知識を身につける訓練を行っている。まん延防止等重点措置適用期間においては、各分団とも図上訓練や東京消防庁の

eラーニングの受講、出動マニュアル作成など、工夫により災害発生時の出動に支障がないよう努めている。

ヤングケアラーについて

質問 障害や病気を持つ家族の世話や家事を日常的に行う18歳未満の子ども「ヤングケアラー」の支援策や社会的認知度の向上について伺う。

市長 理解を深める取り組みとして、令和3年の夏季休業前には児童・生徒へチラシを配布した。また、周囲の大人がどのような環境を作るかも課題。今後は、講演会や研修会などを開催し、周知を図る。児童・生徒が該当すると思われる場合は、関係機関と連携を図り支援を行う。

陳情

結論の付いた陳情は次のとおりです。

◆不採択

○条例制定義務の課題を明らかにすることを求める陳情書(4・1号)

(不採択理由)

法令にも条例にも定めがなければ義務を課すことはなく、また条文の解釈方法とアメリカ合衆国憲法を引用して論を立てることについても適当ではないため、意に沿いません。

○福生市の条例・規則で議員及び首長が請願法の官公署であることを規定することを求める陳情書(4・2号)

(不採択理由)

条例は議会制民主主義における適正な手続を経て制定され機能しているものであり、また条文の解釈方法とアメリカ合衆国憲法を引用して論を立てることについても適当ではないため、意に沿いません。

(不採択理由)

市長及び議員は、代表者の立場であっても官公署と解釈することはできず、また条文の解釈方法と大韓民国憲法を引用して論を立てることについても適当ではないため、意に沿いません。

○「福生市憲法条例」の制定を求める陳情書(4・3号)

(不採択理由)

条例は議会制民主主義における適正な手続を経て制定され機能しているものであり、また条文の解釈方法とアメリカ合衆国憲法を引用して論を立てることについても適当ではないため、意に沿いません。

○福生市議会会議規則に「議長が紹介議員を任命する」を加える改正を求める陳情書(4・4号)

(不採択理由)

この紹介議員は、地方自治法第124条により議員に紹介議員の権限が規定されており、またこの紹介は請願の趣旨に賛同する者に限られることから、意に沿いません。

○消費税・適格請求書等保存方式(インボイス制度)の導入中止を働きかける国への意見書提出を求める陳情書(4・5号)

(不採択理由)

インボイス制度は複数税率の下でも適正な課税を確保するため、売手が努力し、市民サービスの向上と持続可能な市政運営のためのバランスのとれた予算であり、新規事業及び改善事業の精査とともに既存事業の見直しや経費削減なども随所に盛り込まれている。

歳出では、新型コロナウイルスワクチン接種事業、福生駅西口地区市街地再開発事業、東福生駅自由通路整備事業があり、教育行政では、ICT推進事業、東京都モデル地区として幼保小中の円滑な接続及び連携、英語教育の推進、小中一貫校の検討が行われ、より良い学校教育の実現を期待できることから、本予算に賛成する。

本予算は、財源確保に賛成

(不採択理由)

買手に対し正確な適用税率、税額を伝える仕組みとして導入するものであり、個人事業者に負担を強いいるのではなく、事業実態に合わせた制度であるため、意に沿いません。

○福生市立図書館に関する陳情書(4・6号)

(不採択理由)

会計年度任用の職とは、1会計年度ごとにその職の必要性が吟味される新たに設置された職と位置付けられるものとされており、また14名の会計年度任用職員の意味等も不明確なことから、意に沿いません。

そのほか次の議案等に対しても討論がありました。

○令和4年度福生市国民健康保険特別会計予算

○令和4年度福生市介護保険特別会計予算

○令和4年度福生市後期高齢者医療特別会計予算

○消費税・適格請求書等保存方式(インボイス制度)の導入中止を働きかける国への意見書提出を求める陳情書

○福生市立図書館に関する陳情書

○福生市立図書館に関する陳情書

討論

●令和4年度福生市一般会計予算に対する討論

■反対

行財政運営について、お金を貯めこむだけではなく、積極的な行財政運営に転換すべきであること、公共施設削減について、本予算案は公共施設の20%削減の立場に固執していること、横田基地について、自治体の長として基地返還を求める立場を鮮明に打ち出すべきであること、会計年度任用職員について、中央図書館の工事・休館に伴い、会計年度任用職員14人を雇い止めとしたこと、学校教育について、現在の小学校7校を4校に削減する計画が進んでおり、今後、少人数学級の推進ができなくなることから、本予算案に反対する。

本予算は、財源確保に賛成

■賛成

高年齢社会の進展を見据えた持続可能なまちづくりタスクフォースの設置、環境負荷を低減する公用車への買い換え、サイクルシェアリング事業の推進、市税等の納付方法におけるキャッシュレス決済の導入、東福生駅自由通路へのエレベーター設置、令和における福生市立学校の在り方検討委員会の設置などにより、持続可能なまちづくりへ向けた積極的な取り組み姿勢を高く評価することから、本予算に賛成する。

本予算は、事業の必要性や有効性について各課分析を行い、市民サービスへ大きな影響のない形で、事業の見直しが行われている。

福生駅西口地区再開発を含めた公共施設に関連した取り組みに対応するための「公共施設マネジメント課」の設置、自然環境の保全等とまちづくりを一

本予算は、財源確保に賛成